

第2学年 保健体育科「傷害の防止(交通事故の危険予測と回避)」 「保健分野」

危険予測し、対話を通してその要因と改善策を探り、判断力を育てる

二本松第三中学校 武藤 利教

I 単元構成の工夫

本単元は、交通事故や自然災害などによる傷害を防止するには、人的要因と環境要因が相互に関連して発生することを理解し、実生活への実践力を身につけることをめざしている。生徒自身の実生活と照らし合わせ、行動の想起・ふり返りを行うことで自分自身の課題として捉え、また、視覚教材を活用し、危険予測の場面を課題として提示し思考する意欲を高め、主体的な課題解決へつなぎたい。さらに仲間と考えを交流することで自分では気づけなかった視点にも触れ、具体的な対策に迫らせ、実際の行動に結びつけていきたい。

生徒の実態

近年、車社会による交通事故の増加や異常気象による猛暑やゲリラ豪雨、東日本大震災の余震とみられる大規模な地震などの自然災害など、自分の身に降りかかってくる様々な驚異にさらされている。生徒はそういった危険から身を守ることは大切だと分かっているものの、実際の行動には、必ずしも結びついていない。

単元を通して育成したい子どもの姿

交通事故や自然災害などによる傷害の防止について、実生活と照らし合わせて色々な角度から傷害の要因とその改善策を探り、実践する姿

「単元構成の工夫」における ○成果と●課題

- 最初の学習で単元計画の見通しをもたせ、そこから様々な危険を予測しながらその対応を考えさせた。そして、実際に包帯法や止血法、心肺蘇生法などの体験を通して、傷害の防止について実践することができた。
- 「傷害を防止する」ことを自分事として捉えさせるため、実生活を想起させる場面・状況設定が必要である。例えば、「事故の加害者になってしまったら…」「将来、社会人になって車を運転して事故を起こしてしまったら…」等々の設定を投げかけていくことが考えられる。


学習計画（総時数8時間）

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す対話する	交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因について話し合う。	人的要因や環境要因が関わって発生することを具体的に説明できる。(思・判・表)
2	考え対話する	傷害の防止に関わる事項や情報を整理して、未然防止策を話し合い、考える。	
(本時)	考える対話する	交通事故などによる傷害を防止するために、危険を予測してそれぞれの要因に対して適切な対策を考える。	自分達の生活と関連付け、具体的な課題や対策について説明できる。(思・判・表)
4	考える対話する	自然災害発生時に、傷害を引き起こす様々な危険を予測し回避するための対策を考える。	自然災害発生時と二次災害による傷害があることを理解できる。(知)
5	考える対話する	自然災害への備えと傷害の防止のために必要なことを検討し、発表する。	自他の安全を確保するために冷静かつ迅速な行動について記述できる。(知)(判・表)
6	習得する	包帯法や止血法の実習を行い、知識や技能の技能を身につける。	包帯法や止血法を理解し、実践できる。(知)(思・判・表)
7	習得する	心肺蘇生法について理解し、胸骨圧迫やAEDの使用などの心肺蘇生法ができる。	胸骨圧迫やAED使用など実践できる。(知)(思・判・表)
8	ふり返る	傷害の発生した場面やケガの状況に適した応急手当の方法や手順、危険予測や回避方法について考え、グループで話し合う。	その場面に即して改善点や根拠をあげて説明できる。(思・判・表)

II コーディネートの工夫

<本時のねらい> 様々な状況を的確に捉え、危険を予測することにより、危険を回避できる方法を考えることができる。

	学習活動・内容(T主な発問C児童の反応)
課題設定	<p>1 前時までの学習をふり返る。 (1) 写真から分かることを発表させる。 (2) 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>交通事故を防ぐためには、どんな対策が必要だろうか</p> </div>
課題解決	<p>2 危険を予測し、回避方法を考える。 T: この場面では、どんな危険が予測されますか。 C: 親子で歩いているが、子どもが急に飛び出してくるかもしれないので、子どもの動きに注意してゆっくり進みます。</p> <p>3 内容をグループで話し合う。</p> <p>4 各グループで話し合った内容を全体に発表する。</p> <p>5 同じ写真でさらに状況が変わった場合について、さらに考える。 T: このように状況が変化したら、さらにどんな危険が増えますか。危険を回避するためには、どうしたらよいでしょうか。 C: 突然の降雨により、視界不良になり危険がますため、より安全に運転しようとする。</p>
振り返り	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>危険を予測し、それぞれの要因に対して、適切な対策を行えば、交通事故や事故による傷害を防ぐことができる。</p> </div>

<コーディネートの実際>	
2	<p>危険を予測し、回避方法を考える。 T: この場面では、どんな危険が予測されますか。 C: 迷っているうちに、交差点から人や車が出てきて衝突するかもしれません。 C: ブレーキの効きが悪いので、急に止まれないかもしれません。</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>各班に違う場面の写真を提示したため、全体の話し合いが深まらなかった。</p> </div> <p>T: 回避する方法や改善策はどうですか。 C: 相手が止まってくれると思わず、一時停止をし確認してから走行する。</p>
5	<p>同じ写真でさらに状況が変わった場合についてさらに考える。 T: この状況で雨が降り出したらどうですか。 C: 急いで帰ります。 T: スピードを出して帰るのですか。 C: ……</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>教師と生徒の1対1のやり取りになってしまい全体に広げることができなかった。</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">  </div> <p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・周りの状況に気を配る。先を見て行動する。落ち着いて安全確認する。予測して安全に行動する。</p> </div>

<コーディネートの改善>	
2	<p>映像を見て危険を予測し回避方法を考える。 T: この後、どうなると思う。 C: 交差点から人や車が出てきて衝突する。 C: ブレーキの効きが悪いので、急に止まれない。 T: どうすれば良かったですか。 C: 一時停止して安全を確認する。</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>全体で映像を一時停止し危険を予測させることでイメージをもちやすくなる。</p> </div>
3	<p>状況が変わった場合について、さらに考える。 T: 最近、雨の日が多いので、この状況で雨が降り出したらどうしますか。 C1: 雨が降ってきたら急いで帰ります。 T: 他には。 C2: 急いで帰るとあせったり、すべったりして危険だと思います。 T: では、どうしますか。 C3: 迎えに来てもらいます。 T: 自分の通学路ではどうですか。 C4: 自力で帰らなければならない時は、いつも以上に周りを見て、安全に気をつけます。</p> <div style="background-color: #00ff00; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の通学路をふり返り、実生活を想起させることで実践力につなげる。</p> </div>

「コーディネートの工夫」における ○成果と●課題
 ○個人の意見を書く→グループでの内容検討→学級全体の広がり、このような流れから共有するとともに多角的な意見を聴き、まとめ、思考を深めることができた。
 ●1対1の対話で生徒の意見を取り上げることが多かったのが、例題の数を焦点化した上で意見を取り上げたり、生徒同士をつないだりするとさらに思考が深まったと思われる。